

やる気を育てる学級経営の創造

——一人一人が認め合い高め合える人間関係づくりを目指して——

1 主題設定の理由

学校教育の中心は学級であることは言わずと知れた事実であり、児童生徒はその学級の中でお互いの個性や様々な考えを認め、のびのびと生活していくことが理想である。しかし、少子高齢化や核家族化、社会情勢のめまぐるしい変化とともに、地域や社会の一員としてのコミュニケーションが減少している。児童生徒は自分の問題を見つめ直したり、他者に思いを表現したりする経験が希薄で、苦手としている。また、他者の多様な考えを認め、理解することも必要なことであるが、難しい。

しかし、前述したように、お互いの個性や様々な考えを認め、上手に表現していくことは、児童生徒が高め合い、のびのびと生活していく上で必要不可欠なことである。また、そのような児童生徒・学級であれば、円滑な学級経営をすることができる。

そこで、今、私たちの学校・学級において、「児童生徒にどのようなことが問題であるのか、また、その個々の背景を理解した上で学級の中で、教員がどのような役割を担い、学級全体をよい方向へとレベルアップさせるべきか」を探究していくことが大事と考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

低学年児童に見られる問題を学級経営の視点から明らかにし、集団との関連を踏まえながら児童のやる気を育てる指導・支援のあり方を追求すれば、主体的に問題を解決できるようになり、さらには一人一人が認め合い、高め合える人間関係ができるであろう。

3 研究内容

(1) 1学年の実践 ～学級活動(2)～
「すききらいはいけないの？」

(2) 2学年の実践 ～学級経営～
「児童のやる気を高める指導・支援のとりくみ」

4 結論

- 互いの頑張りや成果に気付くことができ、励まし、認め合う人間関係づくりができた。
- 個や集団に応じた目標を設定し、それが達成されることで、集団の中での自己存在感を得ることができた。
- 友だちとの関わりを通して、自分の課題解決の方法を考え直すことができた。

東総支部
旭市立中和小学校 矢澤 愛
旭市立富浦小学校 青柳 真央

やる気を育てる学級経営の創造

—一人一人が認め合い高め合える人間関係づくりを目指して—

1 主題設定の理由

学校教育の中心は学級であることは言わずと知れた事実であり、児童生徒はその学級の中でお互いの個性や様々な考えを認め、のびのびと生活していくことが理想である。しかし、少子高齢化や核家族化、社会情勢のめまぐるしい変化とともに、地域や社会の一員としてのコミュニケーションが減少している。児童生徒は自分の問題を見つめ直したり、他者に思いを表現したりする経験が希薄で、苦手としている。また、他者の多様な考えを認め、理解することも必要なことであるが、難しい。

しかし、前述したように、お互いの個性や様々な考えを認め、上手に表現していくことは、児童生徒が高め合い、のびのびと生活していく上で必要不可欠なことである。また、そのような児童生徒・学級であれば、円滑な学級経営をすることができる。

そこで、今、私たちの学校・学級において、「児童生徒にどのようなことが問題であるのか、また、その個々の背景を理解した上で学級の中で、教員がどのような役割を担い、学級全体をよい方向へとレベルアップさせるべきか」を探究していくことが大事と考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

低学年児童に見られる問題を学級経営の視点から明らかにし、集団との関連を踏まえながら児童のやる気を育てる指導・支援のあり方を追求すれば、主体的に問題を解決できるようになり、さらには一人一人が認め合い、高め合える人間関係ができるであろう。

3 研究内容

(1) 1学年の実践 ～学級活動(2)～ 「すききらいはいけないの？」

①学級の実態

中和小学校はこんなところ！

- ・旭市内で1番残食率が低い。
- ・全校ランチルーム給食を実施している。(1年生は2学期より)

しかし、1年生の実態は…

アンケート結果・普段の給食時の様子より

- ・好き嫌いがとても多い。(特に野菜、魚)炭水化物は比較的よく食べる。
- ・嫌いなものや初めて目にしたものは、1口も手を付けずに食べないで残す児童が多い。(アンケートでは3分の1以上)
- ・栄養面を意識して食べることができていない。
- ・おなかいっぱい食べているので、食べ残している自覚がない。(偏った食べ方)



そのため…

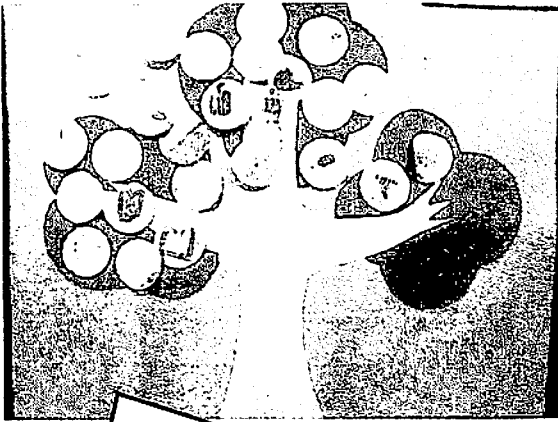
- ・健康によい食事のとり方に気付き、好き嫌い無く、なんでも食べられるようになって欲しい。
- ・学級やランチルームでの給食を楽しいものにし、食に関心を持たせたい。

事前アンケート (男子11人、女子10人、計21人)

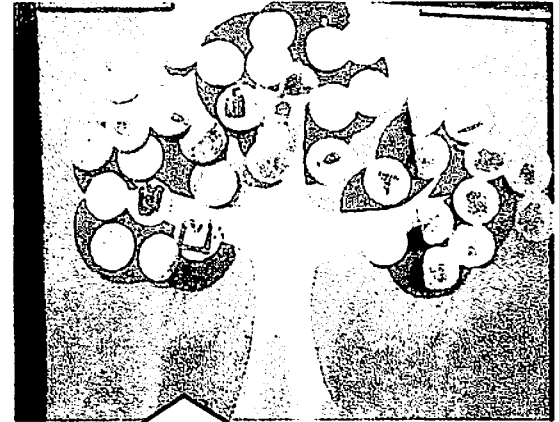
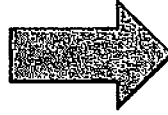
番号	質問	回答
1	きゅうしょくは好きですか。	好き 20人 嫌い 1人
2	好きなきゅうしょくのメニューはなんですか。	カレー 13人 牛乳 9人 ごはん 4人 パン 4人 ハンバーグ 3人 三色丼 2人 エビフライ 1人 デザート 1人 ミートソース 1人 春雨 1人 チンジャオロース 1人 魚 1人 メロン 1人
3	嫌いなきゅうしょくのメニューはなんですか。	野菜 8人 魚 7人 ピーマン 4人 トマト 3人 なす 2人 いか 2人 汁物 2人 きゅうり 1人 ほうれん草 1人 とうもろこし 1人 肉 1人 ゼリー 1人 パイナップル 1人
4	きゅうしょくに嫌いなものがでたらどうしますか。	ぜんぶ食べる 7人 すこしだけ食べる 5人 食べないでのごす 9人
	そのりゆう	食べてみないとわからない 3人 おかわりしたい 4人 えいようのため 1人 いつも残さないから 1人 家では食べているから 1人 少しならがんばる 2人 食べると気持ち悪くなる 3人 おいしくない 3人 食べられない 2人 味がしない 1人

②実践したこと

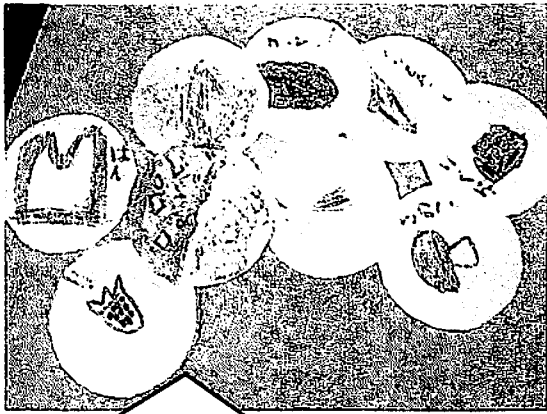
ア 可視化し、問題を自覚させる。



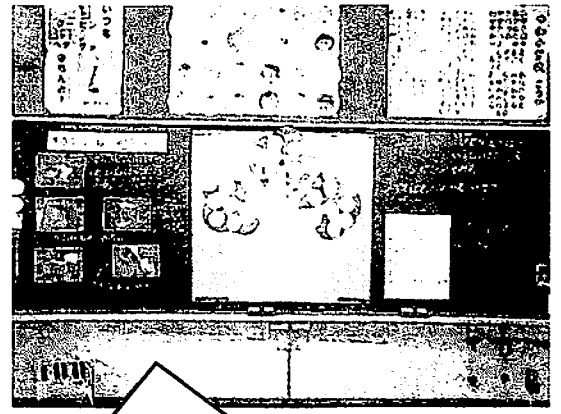
右の枝にカードが全然ないなあ。
このままだと、栄養の木が倒れてしま
うね。



苦手な食べ物のカードも貼った
ら、バランスがよくなったよ。

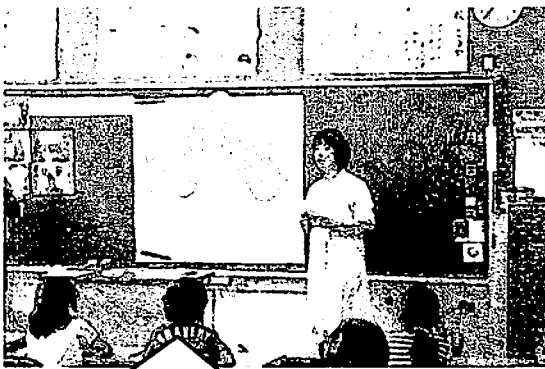


食べ物カード
(好きなもの:ピンク、苦手なもの:水色)

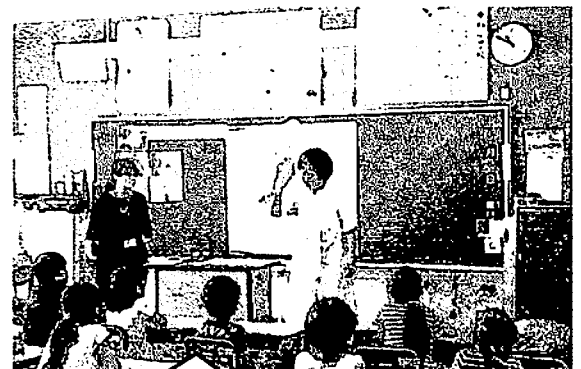


残菜の写真を掲示し、野菜類の食べ残
しが多いことに気づく。

イ 専門的知識を持つ人材を活用する。



作ってくれる人はこんな思いでいるんだ
な。旭市の野菜がたくさん使われているんだ
な。



野菜パペットを活用し、その野菜の栄養
面なども知る。

ウ 自分の課題にあった目標を自分で設定させる。



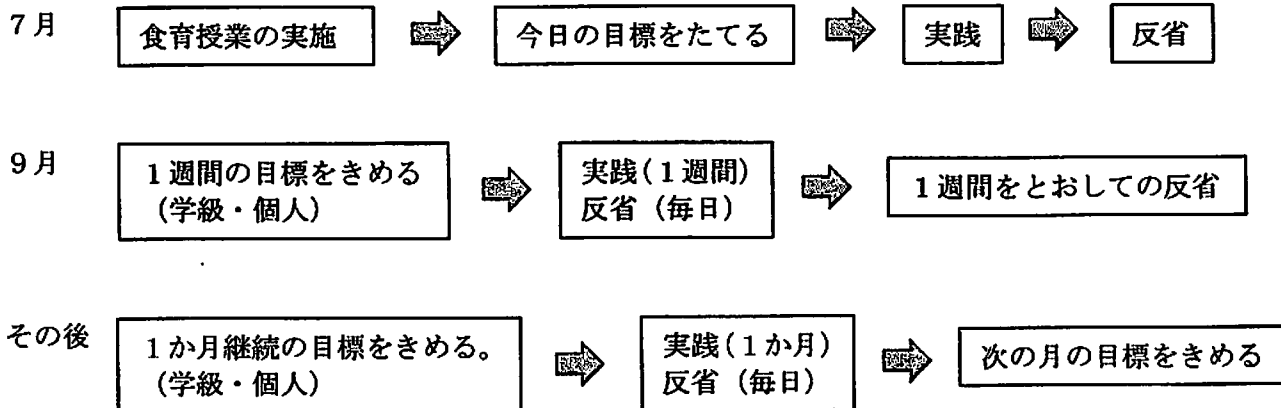
どうしても苦手な食べ物はどうしたら食べられるか、児童とともに考える。
「まずは1口食べてみるというよ。」
「好きなものと一緒に食べてみたらどうかかな。」



ワークシートを用いて、考えを整理する。今日の献立を確認し、具体的な目標を立てる。

エ 継続的な自己決定の場を設ける。(資料編5, 6p)

1学期最後の給食に合わせて授業は実施した。その後、2学期が始まって最初の1週間は「給食頑張り週間」とし、1週間の目標を設定し、とりくんだ。また、2学期からは個々の目標に加え、学級で1つの目標を設定することにした。学級で1つの目標に向かってとりくむことで、学級の一体感や励ましあいにより生まれた。それらの目標は、給食事、「いただきます」の前に口で言うように促し、確認させた。さらにその後は、これまでの自分のとりくみを振り返り、目標を考え直し、1か月継続してとりくむようにした。このように常に自分にあった目標を設定してとりくめるように、その時の自分の足りないところを考え目標を検討できる場を設けた。また、給食の目標を決めるときは、班ごとにお互いに伝えあい交流した。



オ 家庭との連携を図る。

児童が書いたワークシートは家庭に持ち帰り、授業や活動の内容を知ってもらい、保護者にコメントをもらった。このことにより、学校給食、そして食育指導への関心を促すことができた。また、保護者からも励ましの言葉をもらうことで、児童のやる気の高まりや、達成感に繋がった。

以上の実践により...



☆食に対する関心の高まり

スモールステップでの目標設定により、食に対して意欲的に、そして関心を持って食事ができるようになった。また、保護者と連携したことで、家庭での食事の様子にも変化があった。メニューによって差はあるものの、給食での残菜は大幅に減少した。

☆自己存在感の育成（気づき、認め合う）

学級で1つの目標を設定したり、個々の目標が児童の中で共通認識されていたりすることで、お互いの成長や頑張りがよくわかった。そのため、児童は自然と友だちの頑張りを認め、励ましていた。また、次の目標設定のアドバイスもしていた。友だちをねぎらう言葉は、その都度拾い、他の児童とも共有した。そのことが自分の思いだけでなく、友だちからの意見も取り入れる柔軟な姿勢の育成や、客観的な意見を知る良い機会となった。同時に、学級の一員としての所属感が持てた。



「○ちゃん、今日は全部食べてえらいね。」
「△くん、嫌いなピーマン食べたの。すごい。」

③成果と課題

成果

- ・お互いの目標や食べている様子を知っていたので、友達の頑張りを認めたり、励ましあったりする様子が見られた。
- ・可視化することで、今の課題がはっきりとわかり、児童は自分たちの問題として考えることができた。また、担任だけでなく専門的知識をもつ外部講師を活用することで、様々な人の意見として聞き、考えることができた。
- ・友達と意見を出し合って考えたり、スモールステップで目標を設定したりして、そのときの自分に合った目標を決めることができた。

課題

- ・意欲の継続のために、さらに手立てを考える必要がある。
- ・児童の考えがうまくまとまったり、目標設定を助けられたりするワークシートの工夫が大切だと感じた。

(2) 2学年の実践 ～学級経営～

「児童のやる気を高める指導・支援のとりくみ」

① 学級の実態

本学級は、男子17人（内1人 知的障害特別支援学級在籍）、女子12人の計29人である。全体的には素直で元気であり、外遊びを進んで行う子が多い。また一度決めたまきりは守ろうとする子が多く、「認められたい」「褒められたい」という気持ちが強い。一方、全体的に学力が低く、精神的に幼い子が多い。また特別支援学級に在籍している児童は1人だが、支援を要する児童の割合が多い。情緒が不安定なAは、1年生の時は、自分の意にすぐわなないことがあるとすぐに腹を立て、物に当たったり、暴言を吐いたりすることもあった。

他にも、補聴器を使用している児童や自立排泄ができない児童、足に装具をつけている児童、多動で集中力のない児童、家庭的に不安定な児童、長欠傾向がある児童、学力がかなり低い児童等々、何らかの課題を抱えている児童が多く見られる。

2年生の初めは、教員の話や友だちの発表をきちんと聞く態度が身についておらず、落ち着いて活動に取り組むことができなかつた。また、マイペースで時間感覚があまりない子が多く、全体が揃って活動できないことが悩みであった。しかし、決められたことは守ろうとする素直な子が多いので、クラス全体でルールを決めたり、個に応じた支援を工夫したりすればクラスの状態は改善していけると感じた。

②実践したこと

ア 学級のルールやめあてを明確にする。

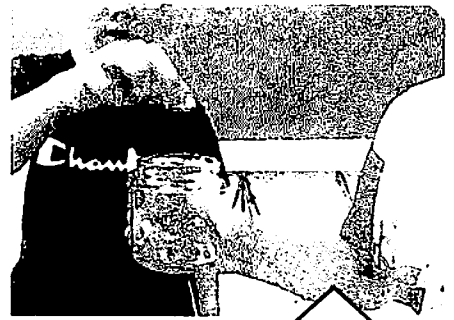
○ビー玉ポイント

学級の実態から、今年度1年間「号令時の姿勢」と「朝の歌声タイム」に力を入れていきたいと思った。そのために「ビー玉ポイント」にとりくんでいくことにした。

「ビー玉ポイント」は、一つのことに対して全員が頑張れたときにガラス瓶にビー玉を貯めていくというものであり、みんなで力を合わせて貯めていくことにした。号令においては、日直が「気をつけ」と号令をかけた後、素早く自分のやっていることをやめ、姿勢を正して教員の方を見る、そして礼をした後も心の中で3秒数え、よい姿勢は維持したままにするということを全員ができれば1ポイントとした。朝の歌声においては、全員が指三本分の大きな口を開けて歌えたら1ポイントとした。

また、ポイントがクラスの人気29人と担任1人を合わせて30ポイント貯まったら、「お楽しみタイム」を設けることにした。お楽しみタイムは、貯まった日の日直が司会、進行役となり、どんなレクをやるかをミニ学級会形式で決めていく。そして、みんなで決めた遊びを行う。

このビー玉ポイントを取り入れたことで、児童が継続的に姿勢と歌声を意識できるようになった。また、もっとポイントを貯められるようにみんなで協力して頑張ろうという気持ちがどんどん強くなり、児童が互いに声かけをするようになった。Aも以前までは友だちに注意されると腹を立て、暴言を吐いたりしていたが、この活動を取り入れてからは「ビー玉をたくさん貯めたい」と強く思うようになり、友だちの注意も素直に聞くことができるようになってきた。ポイントは黒板の横に「○ポイント」と掲示し、視覚的に意識できるようにした。ビー玉がどんどん貯まっていく様子を目で感じたり、ビー玉どうしが当たる音で感じたりして、意欲的にとりくむ姿が見られた。



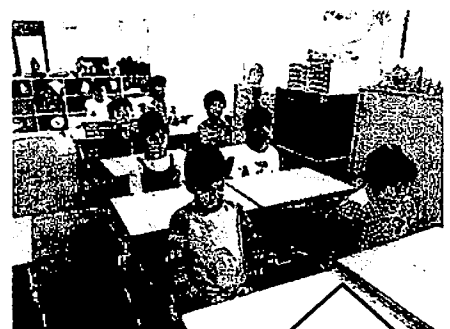
「ポイントが貯まっていく様子がよくわかるね。」

○瞑想タイム

学期始めの1番の悩みは、授業や活動の始まりに全体が揃わないことであった。そこで、気持ちよく1日がスタートできるように、朝のしたくの時間に力を入れることにした。本学校は7時55分のチャイムが鳴ったら、今月の歌が流れ、その後朝の会という流れになっている。

「瞑想タイム」は、今月の歌が流れている間に行うこととした。瞑想にはいろいろな気持ちをリセットしたり、心を落ち着かせる効果もある。瞑想の時間は目を閉じて、心を落ち着かせて無心で行っていくようにした。

この活動にとりくむ前は、朝の支度が7時55分のチャイムまでに間に合わない子も多く、教室の後ろで支度をしている子もいれば、支度は終わっているがチャイム着席が



チャイム着席をし、瞑想スタート!

できていない子もいたりして、教室全体が騒がしく、落ち着かない状態でのスタートが多くあった。しかし、「瞑想タイム」を行ってから、時間を意識する子が多くなり、ほとんどの児童が55分のチャイムまでに着席をし、静かに瞑想をしている。また支度が間に合っていない子も、その静かな雰囲気の中で「早く支度をしなければ」という気持ちになり、以前よりも朝の支度が早くなった。活動の始まりも全体が揃って始められることが増え、落ち着いた雰囲気の中で朝の会を始められるようになった。

イ 個に応じた支援をする。

○名人作り

この活動は、力を入れて指導したい「学習の姿勢」「話の聞き方」「挨拶」の3つのポイントにおいて、ビー玉ポイントのとりくみと合わせて、個への手立てとしてとりくんだものである。1日を通して、この3つのポイントを頑張った子をそれぞれ「姿勢名人」「聞き方名人」「挨拶名人」として教員が選び、帰りの会で発表するようにした。

「学習の姿勢」については、授業中に特に姿勢がよい子を選んだ。「聞き方名人」は、ピアサポートの授業と関連させて、①返事をする、②していることをやめる、③相手を見る、④うなずく、⑤最後まで聞く、の5つのポイントができているかどうかで選んだ。「挨拶名人」は、朝教室に入るときに元気に挨拶をすることができるということから始め、自分の学年の友だちに挨拶ができる、教職員に挨拶ができる、他の学年の友だちにも挨拶ができるというように、挨拶の対象の幅を広げていき、名人を選んだ。

この活動を取り入れたことにより、児童もこの3つのポイントを意識するようになった。まだ名人になっていない子は「名人に選ばれたいから、今日は〇〇を頑張ろう」と意欲的にとりくむようになり、名人になった子は「また名人に選ばれたいから頑張ろう」という気持ちが強くなり、継続的に3つのポイントを意識できるようになってきた。

さらに、「挨拶名人」にとりくんでいくことを通して、児童どうしの挨拶も活発になり、挨拶を通してコミュニケーションを取ることができた。自分も相手も気持ちがよくなる挨拶をするにはどうしたらよいかを考え、進んで気持ちのよい挨拶ができるということは素晴らしいことだと気づくことができた。

また児童の意識が低下していかないように、それぞれの名人に5回選ばれた子には「名人賞状」を渡し、1年を通して意識的にとりくんでいけるようにした。

○がんばりカード

本学級の実態として、特別な支援を要する児童が多く、個に応じた支援が必要なので、その子に応じた「がんばりカード」を作成し、取り組んだ。

家庭学習の習慣が身につけていない子には「宿題がんばったよカード」、自分の身の回りの整理整頓が苦手な子には「いつもピカピカカード」というように、その子が頑張るポイントを明確にし、「やらされている」ではなく、自発的にその目標にとりくんでいけるようにした。目標が達成されたらスタンプを押し、決められた数スタンプが貯まったらシールを貼り、そのシールが貯まったら「がんばり賞状」を渡すことにした。たくさんスタンプやシールが貯まることで、子どもたちは達成感や満足感を感じ、意欲の継続につながった。

③成果と課題

ア 学級のルールやめあてを明確にする。

○ビー玉ポイント

成果

・児童が「号令時の姿勢」と「朝の歌声」を継続的に頑張っていこうという意識がつい

てきた。

- ・教員からの声かけだけでなく、児童の中で「もっとポイントを貯めたい」という気持ちがだんだん強くなり、そのためには「みんなで協力しなければいけない」という意識が高まり、児童が互いに声かけをするようになった。
- ・声かけの仕方にも工夫が見られ、自分だったらこう声かけされたら頑張れるということを考え、だんだんと相手の気持ちを考えられるようになってきた。
- ・情緒不安定なAも、「ポイントを貯めたい」という気持ちから意欲的にこの2つのポイントに取り組めるようになり、1年の時よりも落ち着いてきた。

課題

- ・ビー玉ポイントがもらえることで意欲的に取り組むことができたが、ビー玉ポイントがなくても意欲が継続するように工夫が必要である。

○瞑想タイム

成果

- ・ほとんどの子が7時55分のチャイム着席ができるようになり、時間に対する意識も高まってきた。
- ・落ち着いた雰囲気の中、朝の会を始められるようになった。

課題

- ・登校が遅めな児童は、時間に対する意識は高まったが、瞑想の時間までに支度が間に合わないこともあったので、他の手立ても考えていく必要がある。

イ 個に応じた支援をする。

○名人作り

成果

- ・「名人になりたい」という気持ちが強い子や、一度名人になった子は、意欲的にとりくもうとする気持ちが高まった。

課題

- ・今後、どんな場面でも名人としての意識をもてるように、児童が互いに見合うなどの方策を考えたい。
- ・帰りの会で発表するので、名人を発表する時間の確保が難しい。

○がんばりカード

成果

- ・特別な支援を必要とする児童にとっては、スモールステップでとりくんでいけるので、見通しをもってとりくむことができた。
- ・たくさんスタンプやシールが貯まっていくことで、達成感や満足感を感じることで、自発的に目標に向かって取り組んでいけるようになった。
- ・がんばりカードにとりくんでいる児童が目標を決めて頑張っている姿を見て、他の児童も「すごいね」「頑張っているね」と称賛する様子が見られ、互いに認め合い、高め合える人間関係ができてきた。

課題

- ・児童によっては、目標を達成できない日が続き、意欲の低下が見られたので、とりくみ方の工夫が必要である。

4 結論

○互いの頑張りや成果に気付くことができ、励まし、認め合う人間関係づくりができた。

○個や集団に応じた目標を設定し、それが達成されることで、集団の中での自己存在感を得ることができた。

○友だちとの関わりを通して、自分の課題解決の方法を考え直すことができた。

▲強い意志をもって継続していくための有効な手立てを考えていく必要がある。

▲教師主体ではなく、友だちとの関わりの中で、自分たちで課題に対する意欲を維持していきける集団づくりを目指したい。

資料編

第1学年1組 学級活動指導案

指導者 T1 矢澤 愛
栄養教諭 T2 石井 幸恵

1 題材「すききらいはいけないの？」

内容 (2)キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、男子11名、女子10名の計21名である。4月に入学し、毎日の給食では、友だちと楽しそうに食べている児童が多い。給食についてのアンケート結果から見ても、子どもたちは全員給食が好きと答えていた。

しかし、実際は食べ物の好き嫌いがとても多く、特に野菜が苦手だったり、食わず嫌いが多かったりする。給食時には、自分の好きなものばかり食べている様子も見られる。食の在り方も多様化し、エネルギーを取ることは容易であるが、バランス良く食べる機会は減ってきている。学校給食は、様々な食文化に触れたり、バランスの良い献立で食べたりできる貴重な機会である。そんな学校給食の機会を活かしきれしていないのが現状である。

(2) 題材設定の理由（指導観）

本学級では、規則正しい生活を送り、外で元気に遊ぶなど、健康的で明るく過ごせることを目指すために、3つの学級目標の中に「元気に遊ぶ子」を掲げている。本題材は、健康な体づくりに欠かすことの出来ない学校給食において、好き嫌い無くバランス良く食べられるような子に育てようと考え、学級目標の一つである「元気に遊ぶ子」を取り上げ設定した。

本題材は、学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全」キ「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食生活の形成」を受け、食事は好きな物だけ食べればよいのではなく、バランス良く食べることの重要性を認識させ、体の健康を保つには、好き嫌い無く食べることが大切だと発達段階に応じて理解し、進んでいろいろな物を食べようとする意欲を持たせるために設定したものである。

児童に、ただ「好き嫌い無く食べよう」と投げかけても、その重要性には気付きにくいと考える。そこで、「栄養の木」に、自分たちで作成した好きな物カードを木の実に見立て貼っていき、好きな物だけではバランスが悪く、木が倒れてしまうことを視覚的に伝える。また、「栄養の木」に苦手な食べ物カードを補うことで安定し、自分たちにもいろいろな食べ物が必要なのだと考えることで、バランス良く食べることの大切さを伝えたい。「栄養の木」にカードを貼る際には、専門的な立場から、栄養教諭に指導を受けるようにする。また、給食を作る側の気持ちを児童に話してもらうことで、児童の成長への思いに気付き、苦手なものでも少しずつ食べられるように意欲付けを図っていく。また、栄養教諭の視点から、給食に込められた思いを話すことで、児童に学校給食の大切さや、自然の恩恵について気付かせたい。学習後は、学校給食時に声をかけ続けていくことに加えて、保護者にも学習内容を伝え、児童へ励ましや頑張りを認める言葉をかけてもらうことで、児童が家庭でも意識し実践できるように協力を仰いでいく。

3 第1学年及び第2学年の学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
自己の身の回りの問題に関心をもち、進んで日常の生活や学習に取り組もうとしている。	学校生活を楽しくするために日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	学校生活を楽しくすることの大切さ、そのための基本的な生活や学習の仕方などについて理解している。

4 本題材のねらい

好き嫌い無く食べることの大切さがわかり、意欲を持ちバランス良く食べようとしている。

5 事前の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
7月4日(火)	・事前調査(食べものの好き嫌いについての意識調査)を行う。	・普段の給食時の様子を思い出しながら、書くことを伝える。	【関心・意欲・態度】 ・これまでの給食時の態度を振り返りながら書こうとしている。

6 本時の展開

(1) 本時の活動のテーマ

「好きなものだけでなく、苦手なものも頑張ってバランス良く食べよう。」

(2) 本時のねらい

好き嫌い無く食べることの大切さがわかり、意欲を持ちバランス良く食べようとしている。

(3) 展開

時配	活動の内容	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿と 評価方法
導入 10分	1 給食の様子を振り返る。 ・おいしいから好き。 ・嫌いな食べ物があるからいやだ。	・子どもたちに給食は好きか尋ねる。アンケート結果より、ほとんど好きであるが、苦手な場合、その理由も聞く。	給食時の写真	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 提案資料 (1) ②ア </div>
	2 給食時の写真を見て、野菜の残食が多いことに気付く。 ・ご飯はほとんど残ってないのに、野菜はたくさん残ってるよ。 ・でもすぐおなかいっぱいになるよ。	・苦手な食べ物のお話から、残菜の写真を見せる。副菜(特に野菜類)が多く残っていることに気付かせる。 ・普段児童はおなかいっぱい食べていることにも触れ、好きな物だけでおなかを満たすこと	給食の残りの写真	

		はいけないのか尋ねる。	
	すききらいはいけないの？		
展 開 25 分	3 好きな食べ物カードを分類する。 ・ご飯やカレーがいっぱいあるよ。 ・甘い物も多いね。 ・なんだか右の木(野菜類)に実が全然ないなあ。	・児童の好きな食べ物カードを出して内容を確認する。栄養教諭が、「栄養の木」に実をつけるように分類する。 ・このままではバランスが悪く、倒れてしまうことに気付かせる。	栄 養 の 木 好 き な 食 べ 物 カ ー ド
	4 嫌いな食べ物カードを分類する。 ・嫌いな物は野菜がいっぱいだね。 ・魚も少しあるね。 ・どの枝にも実がいっぱいになったよ。	・児童の嫌いな食べ物カードを出して内容を確認する。栄養教諭が、「栄養の木」に実をつけるように分類する。 ・どの木の枝にもまんべんなく実が付き、バランスがとれたことを確認する。	嫌 い な 食 べ 物 カ ー ド
	5 どうしても苦手な物があるときにどうすればよいか考える。 ・一口だけでも食べてみたら良いんじゃないかな。 ・頑張って我慢して食べてみよう。	・教師がどうしても苦手な物があると告げ、栄養教諭が持つ野菜パペットと会話をする。野菜パペット(栄養教諭)は自分の栄養やおいしく食べられる方法を伝える。 ・児童にもどうしても苦手な物があったとき、どうすれば良いか、一緒に考え発表させる。	野 菜 パ ペ ッ ト
終 末 10 分	6 栄養教諭の説話を聞く。	・栄養教諭より、給食は児童の健康を考えた献立になっていること、調理員の方が毎日心を込めて作っているの、食べてもらえると嬉しいということを伝える。また、自然の恩恵を受けていることにも気付かせる。	
	7 今日の献立を確認し、自分が頑張ることを考える。 ・今日は全部食べられそうだから頑張る。	・今日の学習を振り返って分かったことをワークシートに書く。 ・今日の献立を確認して、今日の	ワ ー ク シ ー ト

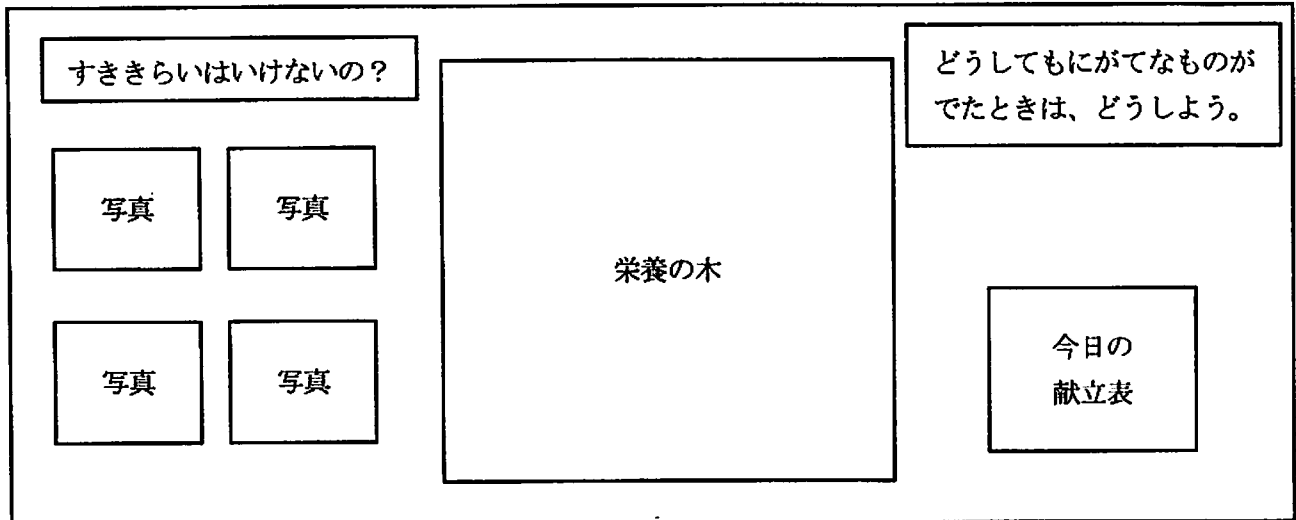
提案資料
(1) ②イ

提案資料
(1) ②ウ

【思考・判断・実践】
・好き嫌い無く食べることの大切さがわかり、意欲

<ul style="list-style-type: none"> ・枝豆サラダを半分食べる。 ・チキンライスが残さない。 	給食時の目標を立てる。 ・立てた目標を発表する。友だちの目標を聞いて、認め合えるようにする。	を持ちバランス良く食べようとしている。 (ワークシート)
--	---	---------------------------------

<板書計画>



7 事後の活動

日時	活動の内容	指導上の留意点	目指す児童生徒の姿と評価方法
7月19日(水) 給食時	・学習時に立てた目標に沿って、少しでも苦手な物を食べるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を思い出せるように声かけをしながら確認させる。 ・無理はさせすぎず、個々の目標に合わせて食べられるように促す。 	【思考・判断・実践】 ・好き嫌いなく食べることの大切さがわかり、実践している。 (観察・ワークシート)
9月4日(月) ～ 9月8日(金) 給食時	・献立に沿って毎日の目標を立て、少しでも苦手な物を食べるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の学習や食べられた経験を思い出しながら目標を立てられるようにする。 ・無理はさせすぎず、個々の目標に合わせて食べられるように促す。 	【思考・判断・実践】 ・好き嫌いなく食べることの大切さがわかり、実践している。 (観察・ワークシート)

すききらいは いけないの？

1ねん なまえ

☆きょうの べんぎょうで わかったことや きがついたこと

すきな(こい)があんまりないな。きらいなものもあつた。

☆きょうの きゅうしょく がんばるぞ!!

のこさないようにがんばる

☆できたかな? (かおにいろをぬろう。)



どうだったかな?

こいだけ

☆おうちのひとから



すくすくたべられるものがあえてきてうれしいです。たべたものはいいものにしてあげてもいいねんじして「おいしい」ほけんをしておいてほしいです。また、がんばってたべられるのをほめていこうね!

すききらいは いけないの？

1ねん なまえ

☆きょうの べんぎょうで わかったことや きがついたこと

じぶんのすきなものは、あまりいよいかい。きらいなものは、たべない。

☆きょうの きゅうしょく がんばるぞ!!

きょうは、きらいなものを、よくから

☆できたかな? (かおにいろをぬろう。)



どうだったかな?

きらいなものを、よくから

☆おうちのひとから



きょうは、一口でも食べてあげよう! という気持ちで、大切にしていけたらいいですね。がんばれ!!

すききらいは いけないの？

1ねん なまえ

☆きょうの べんぎょうで わかったことや きがついたこと

みんなのすきなたべものだけたべたらだめ。きらいなものもたべた。きらいなものは、たべない。

☆きょうの きゅうしょく がんばるぞ!!

えいひい、きらいなものを、よくから

☆できたかな? (かおにいろをぬろう。)



どうだったかな?

きらいなものを、よくから

☆おうちのひとから



好い食べ物は何でも食べてくれるのは、すきなことですね。がんばって食べてね!

すききらいは いけないの？

1ねん なまえ

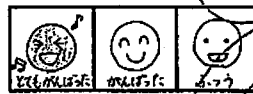
☆きょうの べんぎょうで わかったことや きがついたこと

こまごまは、きらいなものを、よくから

☆きょうの きゅうしょく がんばるぞ!!

きらいなものを、よくから

☆できたかな? (かおにいろをぬろう。)



どうだったかな?

きらいなものを、よくから

☆おうちのひとから



おうちでとすききらいせず、なんてとたべられるようにがんばろうね。

きゅうしよくがんばりカード

【なまえ】

◎クラスのもくひょう

きゅうしよくをがんばってのむ

みんなでがんばろう!

◎じぶんのもくひょう

きゅうしよくをぜんぶたべ

できたかな?

9がつ4にち (げつようび)	9がつ5にち (かようび)	9がつ6にち (すいようび)	9がつ7にち (もくようび)	9がつ8にち (きんようび)

◎りかえり

きゅうしよくをぜんぶたべてのむ

もくひょうがあつたからせんぶたべた

◎うちのひとか

やでいっ、たくさんたべられるようになったよ、かたね。がんばったね。

きゅうしよくがんばりカード

【なまえ】

◎クラスのもくひょう

きゅうしよくをがんばってのむ

みんなでがんばろう!

◎じぶんのもくひょう

やさしいひとくあてを

できたかな?

9がつ4にち (げつようび)	9がつ5にち (かようび)	9がつ6にち (すいようび)	9がつ7にち (もくようび)	9がつ8にち (きんようび)

◎りかえり

きゅうしよくをがんばってのむ

◎うちのひとか

← あつた、かたね、やさしいひとくあてをたくさんたべたよ、かたね。

きゅうしよくがんばりカード

【なまえ】

◎クラスのもくひょう

きゅうしよくをがんばってのむ

みんなでがんばろう!

◎じぶんのもくひょう

ぜんぶたべてみたい。

できたかな?

9がつ4にち (げつようび)	9がつ5にち (かようび)	9がつ6にち (すいようび)	9がつ7にち (もくようび)	9がつ8にち (きんようび)

◎りかえり

いっぱいだけぜんぶたべたらおなかがいっぱいだった

◎うちのひとか

きゅうしよくをぜんぶたべたんだね。すごいね、がんばったね。えいようまんでのきゅうしよく、おいしいね!! がんばったね!!

きゅうしよくがんばりカード

【なまえ】

◎クラスのもくひょう

きゅうしよくをがんばってのむ

みんなでがんばろう!

◎じぶんのもくひょう

みたことのよいものであつたよ。

できたかな?

9がつ4にち (げつようび)	9がつ5にち (かようび)	9がつ6にち (すいようび)	9がつ7にち (もくようび)	9がつ8にち (きんようび)

◎りかえり

きゅうしよくをがんばってのむ

◎うちのひとか

じぶんが、がんばるべきことをちゃんとわかっていて、がんばっているとおもいます。がんばってほしいです。